

「野草」に掲載されたフロラ関係文献目録(1)

「野草」は野外植物研究会により1935（昭和10）年に創刊され、昭和59年1月には満50年、50巻397号まで発刊している。大戦による空白部分が1年半ある。内容はフロラ、分類、地理等である。特に帰化植物の採集報告は貴重な記録である。なお本年3月、15巻（創刊号～300号まで）が復刻された。

本稿には、長野県フロラ関係の記事を拾った。号数（発行年・月）、著者・テーマ・頁の順に記す。

- 1巻1号（1935年12月）
黒坂慶一郎：信州長日向（軽井沢）採集記 7～11
松山庫三：野外植物雑誌(1) ヤマカモジグサ 12
2巻2号（1936年2月）
黒坂慶一郎：信州塩田柿に就て 18～22
2巻3号（1936年3月）
黒坂慶一郎：籠登山と烏帽子岳採集案内 1～11
松山庫三：野外植物雑誌(4) センジュガンピノ葯ノ色 16
2巻7号（1936年7月）
長沢光男：八ヶ岳山麓採集記 16～18
2巻9号（1936年9月）
黒坂慶一郎：八ヶ岳採集記(1) 4～7
2巻11号（1936年11月）
黒坂慶一郎：八ヶ岳採集記(2) 7～12
3巻6号（1937年6月）
牧野晩成：南軽井沢神津牧場附近採集記 91～93
7号（1939年）同年「花の木」と改題
牧野晩成：戸隠山と黒姫山 59～63
9号（1939年12月）
松山庫三：シャデクサウ私考(一) 72～76
2巻3号（1940年3月）
牧野晩成：ユキクラヌカボ及び其他 1～3
松山庫三：ユキクラヌカボ附記 3～4
5号（1942年9月）同年「野草」と再改題
松山庫三：山地植物新知見 本州のオクミヤマキンバイ型、オクノヒメウメバチソウ（新称）11～12
8号（1943年1月）
黒坂慶一郎：私の植物採集地と其感想 9 長野県地方 10～11
松山庫三：雑報(1) エゾノミズタデの型 7号（1943年7月）
小祝三郎：採集記〔Ⅱ〕信州入笠山 2～4
松山庫三：採集会餘録 ④アオイチゴツナギ ⑦ケ

- ミヤマガマズミ ⑨ミサヤマチャヒキ 10～14
牧野晩成：ミサヤマチャヒキ（*Helicotrichon Hidewoi Ohwi*）を採るの記 14～16
1月号（1945年1月）
木魯生：蒲公英の雑音 8～12
2・3月号（1945年2・3月）
木魯生：竹の雑音 21～24
7号（1947年3月）
松山庫三：御牧ヶ原瞥見 91～92
12号（1947年8月）
松山庫三：野草覚書 4) エゾカハラマツバとエゾノケカワラマツバ 3
14号（1947年10月）
松山庫三：続々野草覚書 1. シロバナシラゲヤマハクカ（新称）1
14巻4号（1984年4月）
松山庫三：ヤマカモジグサとエゾノヤマカモジグサ 1
14巻10号（1948年10月）
松山庫三：野外植物新知見(8) 38ウラゲムカゴトラノヲ、40モトゲオニイタヤ、41ケオホガニツリ
武井 尚：ヒメイヌガラシの新産地に就て 3
14巻11号（1948年11月）
武井 尚：霧ヶ峰の植物補遺(1) 1
松山庫三：野外植物新知見(9) 48ウスベニシホガマ 3
松山庫三：北佐久に遊ぶ 4
16巻1月号（1950年2月）
松山庫三：木人独語(2) ハナノキ 2
17巻139号（1951年1月）
松山庫三：ボタニカルノート(2) 11ナンテンハギの毛 2
17巻148号（1951年10月）
松山庫三：ボタニカルノート(9) 81ノハラクサフジ 82ヒロハニンジン 3
歌川義男：軽井沢採集記 4～6
18巻2号（1952年2月）
松山庫三：ボタニカルノート(3) 117タカネイブキボウフウ 2
18巻11号（1952年11月）
歌川義男：八ヶ岳採集行 5～6
19巻6号（1953年6月）

- 桧山庫三：ボタニカルノート(29) 252 トダイハタザ
 オ 2
 19巻7号(1953年7月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(30) 255 姫源氏スミレ
 1
 19巻9号(1953年9月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(32) 273 コバノイラク
 サの多毛型 2
 19巻10号(1953年10月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(33) 277 ヒメコヌカグ
 サの一型 2
 19巻12号(1953年12月)
 青木秀夫：信州霧ヶ峰附近の採集記 2～7
 20巻1号(1954年1月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(1) トクサ科，
 ヒカゲノカズラ科 4～5
 20巻2号(1954年2月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(2) 産地の略
 記 イワヒバ科，ミズニラ科，ハナヤスリ科，ゼ
 ンマイ科，コケシノブ科，キジノオシダ科，ウラ
 ボシ科 6～7
 20巻3号(1954年3月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(3) ウラボシ
 科(統) 6～7
 20巻4号(1954年4月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(4) ウラボシ
 科(統)，デンジソウ科，サンショウモ科，イチ
 イ科，イヌガヤ科，マツ科 6～7
 20巻5号(1954年5月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(40) 319 トガクシツリ
 フネ 1～2
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(5) マツ科
 (統)，スギ科，ヒノキ科，ドグダミ科，センリョ
 ウ科，ヤナギ科
 20巻6号(1954年6月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(6) ヤナギ科
 (統)，クミ科，カバノキ科，ブナ科，ニレ科，
 6～7
 20巻7号(1954年7月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(42) 328 ヤマルリソウ
 の一型 1
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(7) ニレ科
 (統)，クワ科，イラクサ科，ビャクダン科，ヤド
 リギ科，ウマノスズクサ科 6～7
 20巻8号(1954年8月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(8) ウマノス
 ズクサ科(統)，タデ科，アカザ科 6～7
 20巻9号(1954年9月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(44) 336 蓮華岩柳の名
 を用うべし 1
 20巻10号(1954年10月)
 水島正美：ミズタビラコとコシジタビラコ 2～4
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(9) ヒユ科，
 ヤマゴボウ科，ザクロソウ科，スベリヒユ科，ナ
 デシコ科，スイレン科，ヤマグルマ科，カツラ科，
 キンボウゲ科 6～8
 20巻11号(1954年11月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(10) キンボウ
 ゲ科(統) 6～7
 21巻3号(1955年3月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(11) キンボウ
 ゲ科(統)，アケビ科，ツツラフジ科，モクレン科
 6～7
 21巻4号(1955年4月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(12) モクレン
 科(統)，クスノキ科，ケシ科，アブラナ科 6～
 7
 22巻1号(1956年1月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(13) アブラナ
 科(統)，モウセンゴケ科，ベンケイソウ科 10～11
 22巻3号(1956年3月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(14) ベンケイ
 ソウ科(統)，ユキノシタ科，マンサク科，バラ科
 8～11
 22巻4号(1956年4月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(15) バラ科
 (統) 9～11
 22巻6号(1956年6月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(16) バラ科
 (統)，マメ科，フウロソウ科 8～11
 22巻8号(1956年8月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(17) フウロソ
 ウ科(統)，カタバミ科，アマ科，ミカン科，ニガ
 キ科，ヒメハギ科，トウダイグサ科，アワゴケ科，
 ツゲ科，ガンコウラン科 9～11
 22巻9号(1956年9月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(18) ドクウツ
 ギ科，ウルシ科，モチノキ科，ニシキギ科，ミツ
 バウツギ科，カエデ科，トチノキ科，アワブキ科，
 ツリフネソウ科，クロウメモドキ科 8～10
 23巻1号(1956年1月)
 峯付まさ：長野県篠井町付近の帰化植物を中心とし

- て 4～7
 23巻4号(1957年4月)
 大村敏朗：植物ノートから(2) 12シナノユキノヒゲ
 (新称) 8
 23巻5号(1957年5月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(76) 495 クサイ高山に
 のぼる 3
 23巻12号(1957年12月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(83) 558 ナワシロイチ
 ゴの花弁 2
 24巻3号(1958年3月)
 大村敏朗：植物ノートから(6) 30) ナライシダの一
 型, 33) 帰化植物の分布報知 クワモドキ 6～7
 24巻6号(1958年6月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(89) 617 変わったミズ
 タマソウ, 618 キツリフネの白花品 2
 杉本順一：植物雑報(3) 12) ヤナギバスノキの追報,
 15) 石灰岩に生ずるミヅゴケの一種 3～4
 24巻7号(1958年7月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(90) 620 クロマメノキ
 の変型 1
 25巻1号(1959年1月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(96) 669 和学名余話(2)
 2
 25巻2号(1959年2月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(19) クロウメ
 モドキ科(統), ブドウ科, シオノキ科, アオイ科,
 マタタビ科, ツバキ科, オトギリソウ科, ミゾハ
 コベ科, スミレ科, イイギリ科, キブシ科, デン
 チョウゲ科, グミ科, ミソハギ科, ウリノキ科,
 アカバナ科 7～11
 25巻3号(1959年3月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(20) アカバナ
 科(統), アリノトウグサ科, スギナモ科, ウコギ
 科, セリ科, ミズキ科, イワウメ科, リョウブ科,
 イチヤクソウ科 7～11
 25巻4号(1959年4月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(99) 712 エゾムギ 2
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(21) ツツジ科
 9～11
 25巻5号(1959年5月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(22) ツツジ科
 (統), ヤブコウジ科, サクラソウ科 9～11
 25巻6号(1959年6月)
 桧山庫三：ボタニカルノート(101) 729 信濃川上
 の柴田カエデ 2～3
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(23) サクラソ
 ウ科(統), カキノキ科, ハイノキ科, エゴノキ科,
 モクセイ科, フジウツギ科, リンドウ科, 9～11
 25巻7号(1959年7月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(24) リンドウ
 科(統), キョウチクトウ科, ガガイモ科, ヒルガ
 ホ科, ハナシノブ科, ムラサキ科, クマツヅラ科
 9～10
 25巻8号(1959年8月)
 古瀬 義：近頃出された植物誌(目録)についての
 私の愚かな見方 センジョウスケ 7～8
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(25) シソ科
 10～11
 25巻9号(1959年9月)
 古瀬 義：近頃出された植物誌(目録)についての
 私の見方——志賀高原の植物—— 3～6
 25巻10号(1959年10月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(26) シソ科
 (統), ナス科, ゴマノハグサ科 9～11
 25巻11号(1959年11月)
 水島正美：「志賀高原の植物」について(1) 3～5
 早川亮太：志賀高原採集記 5～9
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(27) ゴマノハ
 グサ科(統) 10～11
 25巻12号(1959年12月)
 早川亮太：志賀高原採集記(2) 3～4
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(28) ゴマノハ
 グサ科(統), ノウゼンカズラ科, ハマウツボ科,
 イワタバコ科, タヌキモ科, キツネノマゴ科, ハ
 エドクソウ科, オオバコ科, アカネ科 9～11
 26巻1号(1960年1月)
 水島正美：「志賀高原の植物」について(2) 3～4
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(29) アカネ科
 (統), スイカズラ科 10～11
 26巻2号(1960年2月)
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(30) スイカズ
 ラ科(統), レンブクソウ科, オミナエシ科, マツ
 ムシソウ科, ウリ科, キキョウ科, キク科, 9～
 11
 26巻3号(1960年3月)
 杉本順一：草木断片記(1) 1) トゲチサ(新称) 4
 古瀬 義：風越山人彷徨記(2) 4) タカネマンテマ
 5～7
 武井 尚：長野県フローラ研究資料(31) キク科
 (統) 8～10
 26巻4号(1960年4月)

武井 尚：長野県フローラ研究資料(32) キク科
(続) 8～11

26巻5号(1960年5月)

桧山庫三：ボタニカルノート(112) 804 ヒメマツ
カサススキの学名 1

杉本順一：草木断片記(3) 13) トヨグチノデの最
初の発見者 3

26巻7号(1960年7月)

武井 尚：長野県フローラ研究資料(33) キク科
(続), ガマ科, ミクリ科, ヒルムシロ科, イバラ
モ科, シバナ科, オモダカ科 10～11

26巻8号(1960年8月)

武井 尚：長野県フローラ研究資料(34) トチカガ
ミ科, イネ科 9～11

26巻9号(1960年9月)

武井 尚：長野県フローラ研究資料(35) イネ科
(続) 10～11

26巻10号(1960年10月)

武井 尚：長野県フローラ研究資料(36) イネ科
(続), カヤツリグサ科 9～15

26巻11号(1960年11月)

桧山庫三：ボタニカルノート(118) 839 ヤマトキ
ホコリ 1

武井 尚：長野県フローラ研究資料(37) カヤツリ
グサ科(続), サトイモ科, ウキクサ科, ホシクサ
科, ツユクサ科, ミズアオイ科, イグサ科, ユリ
科 8～15

26巻12号(1960年12月)

武井 尚：長野県フローラ研究資料(38) ヒガンバ
ナ科, ヤマノイモ科, アヤメ科, ラン科 6～11
259号(1961年1月)

桧山庫三：ボタニカルノート(120) 855 ウラジロ
ウコギ 2

260号(1961年3月)

桧山庫三：ボタニカルノート(121) 867 ヒカゲミ
ズ 20 875 シナノカワラマツバの産地 22

古瀬 義：近頃出された植物誌(目録)についての
私の見方——日本南アルプス寒地植物誌——
24～28

261号(1961年5月)

小林純子：採集雑記 1) ヤマハマナス 3) シナ
ノカワラマツバ 49～50

264号(1961年11月)

水島正美：「志賀高原の植物」について(2) 98

265号(1962年1月)

桧山庫三：ボタニカルノート(126) 946 イブキジ

ャコウソウの白花品 1

266号(1962年3月)

桧山庫三：ボタニカルノート(127) 953 モイワナ
ズナ 20

小祝三郎：野草の思い出〔1〕南軽井沢, 神津牧場
採集会 37

269号(1962年9月)

桧山庫三：ボタニカルノート(130) 990 トゲナシ
ウマゴヤシ 79

271号(1963年1月)

杉本順一：植物断片記(4) 29) ニシキミヤママコ
ナ 4

273号(1963年5月)

小松崎一雄：6月末の信州菅平の植物 45～46

274号(1963年7月)

桧山庫三：ボタニカルノート(135) 1050 トガクシ
ツリフネ 60

杉本順一：植物断片記(5) 30) キケンショウマの葉
形について 61

275号(1963年9月)

杉本順一：植物断片記(6) 42) サツキヒナノウスツ
ボの分布 76

276号(1963年11月)

杉本順一：植物断片記(7) 45) クロイチゴの花の色
92

278号(1964年3月)

桧山庫三：ボタニカルノート(139) 1097 ハマタニ
ワタシ 20

280号(1964年7月)

桧山庫三：ボタニカルノート(141) 1125 シロウマ
オウギ 58

大場秀章：北信濃の春 65～66

281号(1964年9月)

桧山庫三：ボタニカルノート(142) 1129 信州志賀
高原植物土名 73

柄山祐希：石灰岩地「戸台」附近の植物 87～89

287号(1965年9月)

桧山庫三：ボタニカルノート(148) 1174 ノハラク
サフジ 1175 メゲヤキ 61

杉本順一：故小泉秀雄先生の未発表の新名 62～63
289号(1966年1月)

桧山庫三：ボタニカルノート(150) 1185 トガクシ
ツリフネ 1

292号(1966年7月)

桧山庫三：ボタニカルノート(151) 1193 信州小諸
千曲川原の植物 1198 アオチドリの美花品

1205 モクゲンジの野生地 42~44
塩田正行：『北部蓼科高原—東白樺湖畔採集記』
50~52

293号(1966年9月)
松山庫三：ボタニカルノート(152) 1208 カラスノ
エンドウ 1209 ミヤマアキノノゲシ 55
竹内 茂・牧野晩成：菅平植物採集記 65~68
294号(1966年11月)
小林純子：菅平の植物 71~77
295号(1967年1月)
小林純子：菅平の植物(2) 4~7

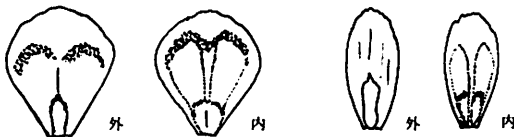
296号(1967年3月)
小林純子：菅平の植物(3) 16~17, 25
297号(1967年5月)
小林純子：菅平の植物(4) 35~37
300号(1967年11月)
小林純子：菅平の植物(6) 91~95 107~110
追。「野草」は1939~1942年の間は「花の木」と改
称されている。以上創刊~300号までのリストであ
るが、号数名に統一がとれていないので、文献利用
のときは、発行年月を確認の必要がある。

(横内 文人)

〔植物ニュース〕94. アカエゾマツ *Picea glehnii*
(Fr. Schm.) Mast. とエゾマツ *P. jezoensis* (Sieb.
et Zucc.) Carr.

最近、東北地方産のエゾマツと同定されていた一
つの球果の鑑定を依頼された。トウヒ属の検索には
まず枝・葉の形質が用いられ、私自身「原色新日本
高山植物図鑑(Ⅱ)」(1983)にアカエゾマツ・エゾ
マツ・トウヒの3者の検索表を書いたが、球果だけ
の場合には検索困難であることを知った。そこで、
改めて球果を調べ直してみたが、次のことが分った。

アカエゾマツは、種鱗は扇形、成熟した球果では
長さ13mm幅11mm程度、上縁にわずかに微鈍鋸歯が
あり、両面の中央より上部両側に弧状の有毛帯がある。
苞鱗の先には細かい鋭鋸歯が出る。これに対して、
エゾマツの種鱗は楕円形、長さ11mm、幅6mm内外、
先に明らかな微鋸歯があり、両面基部付近にわずかに
細毛が認められるが、アカエゾマツのような有毛
帯はない。苞鱗の鋸歯は鈍く不明りょうである。ト
ウヒはエゾマツと同一視されることもあるが(北村
・村田：原色日本植物図鑑 木本編, 1979), 種鱗の
幅はより大きく、上縁の切れ込みは深く、種子の翼
の幅も大きいので区別は可能である。



アカエゾマツ(左)とエゾマツの種鱗と苞鱗(×1/2)

上記の東北地方産の標本は結局アカエゾマツと鑑
定された。ところで、横内斎氏の「信濃植物誌」
(1983)には、エゾマツが上高地産として記されて
いる。果して本州に自生するのかどうか確かめ直す
必要がある。所蔵標本の研究を許された林業試験場
浅川実験林の各位に深謝したい。(清水建美)

95. ウワウルシ *Arctostaphylos uva-ursi* (L.)
Sprengel

昨年、11月の信毎の新聞紙上などで、今井建樹氏
によって八ヶ岳でウワウルシが発見されたことが報
じられ、「茅野市誌」の中で、今年2月、今井氏自
身もこの事実をカラー写真とともに報告されている。

ところで、私は今井氏とともにある植物専門誌に
ウワウルシの発見についての短報を寄せたが、これ
は自生品かどうか疑わしいとの理由で採用されなか
った。実は、昭和30年前後に、八ヶ岳をはじめ全国
各地の山岳に薬草を蒔いたという事実があり、ウワ
ウルシもそのうちの一つであるというのがその理由
である。植物が野生状態にある場合、自生か否かの
判定は実にむずかしい。八ヶ岳のウワウルシが自生
品かどうか確かめる宿題が実は残っているのである。
果してどんな方法があるだろうか。読者の皆さん
のお智慧をお借りしたいものである。(清水建美)

96. ハナノキ *Acer pycnanthum* K. Koch

周知の通り、日本のハナノキの自生地はごく限ら
れている。これに対してアメリカハナノキ *A. rub-*
rum L. は北アメリカ東部の温帯地方では至るところに
生育している。互いに非常によく似ていて、私
にはまだ別種であるという確信がない。地史的にも
距離的にも非常に離れていながら、果して近縁の度
合いはどうかは大きな問題である。その類縁性
の検定のために、大陸間交配をおこなってF₁ 雑性
を確かめるという方法が考えられる。実は、一昨年、
アメリカからとり寄せた1年枝を日本のハナノキに
接木をしておいたのだが、そのうちの1本の♀の接
穂が今春花を咲かせた。早速に下伊那産の花粉をか
けたが少しづつ実が大きくなり始めている。完熟す
るのいかん見ものである。接木方式をとれば、木本
性の種類であっても、意外に早く結論が得られるの
ではないかと思う。(清水建美)